

主要産地における平成26年産水稻の生育状況等について 第11報 (8月11日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成26年8月12日)

道府県	生育状況等		同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等 (抜粋)
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等	
北海道	(全道)	7月後半は、日照時間が長く、気温が高く、降水量は少ない地域がある一方、数日で100mmを超える降雨のあった地域もあったが、順調に生育している。草丈：平年並、葉数：平年並、茎数：多い。生育はやや早い(早4日)。(北海道農政課 8月1日現在)	・注意報ーアカヒゲホソミドリカミカメ 発生地域：全道、発生量：多 (北海道病害虫防除所 8月1日公表)
	(空知)	生育は順調に進んでいるが、出穂にバラツキが見られる(早4日)。草丈：平年並、葉数：平年並、茎数：多。出穂は7月27日。(空知総合振興局8月1日現在)	・8月にはアカヒゲホソミドリカメの多めの発生が予想される。 (北海道病害虫防除所 7月30日公表)
	(石狩)	生育は進んでいるが、一部出穂にばらつきがある(早4日)。草丈：やや長い、葉数：平年並、茎数：多い。(石狩振興局 8月1日現在)	
	(後志)	生育は順調、平年より6日早く推移している。草丈：平年並、葉数：やや少ない、茎数：多い。出穂は7月30日。(後志総合振興局 8月1日現在)	
	(胆振)	好天により、生育はやや早い(早4日)。草丈：やや長、葉数：平年並、茎数：多。(胆振総合振興局 8月1日現在)	
	(日高)	生育は平年より7日早く推移している。草丈：平年並、葉数：平年並、茎数：多。(日高振興局 8月1日現在)	
	(渡島)	生育は平年より5日早く推移。止業期は7月19日。草丈：やや長い、葉数：平年並、茎数：平年並。(渡島総合振興局 8月1日現在)	
	(檜山)	生育は平年並であるが、北部では茎数が多く、平年より出穂が長い(早2日)。草丈：平年並、葉数：平年並、茎数：多い。(檜山振興局 8月1日現在)	
	(上川)	生育は、平年より5日早く推移している。草丈：平年並、葉数：平年並、茎数：やや多。(上川総合振興局 8月1日現在)	
	(留萌)	好天により生育は順調である(早7日)。出穂は7月26日。草丈、葉数、茎数ともに平年並。(留萌振興局 8月1日現在)	
	(オホーツク)	生育は進んでいる(早8日)。出穂は7月26日。草丈：短い、葉数：少ない、茎数：少ない(オホーツク総合振興局 8月1日現在)	
青森	(生育)	・8月5日現在の出穂進捗は、県全体で90%で、平年に比べて66ポイント高かった。出穂最盛期は8月3日で、平年より4日早かった。 (青森県 8月5日現在)	・8月は穂いもち、斑点米カメムシ類は多く、紋枯病はやや多い予報 (青森県病害虫防除所 7月30日公表)
		・つがるロマン(黒石) 出穂期は8月2日で、平年より2日早い。(8月5日付)	・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。 イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。
		・まっしぐら(十和田) 出穂期は8月2日で平年より2日早い。(8月5日付) (青森県産業技術センター農林総合研究所)	・北東北の一部地域では、フタオビコヤガの発生は「多い」予報。 (農林水産省 7月24日公表)
岩手	(生育)	・8月5日現在、県全体で75%の水田で出穂したとみられる。 地帯別の出穂割合と時期 北上川上流 出穂割合：65%、出穂最盛期：8月4日、平年差：-3日 北上川下流 出穂割合：78%、出穂最盛期：8月3日、平年差：-4日 東部 出穂割合：60%、出穂最盛期：8月4日、平年差：-4日 北部 出穂割合：79%、出穂最盛期：8月3日、平年差：-4日 県全体 出穂割合：75%、出穂最盛期：8月3日、平年差：-4日 (岩手県 8月5日現在)	・8月は斑点米カメムシ類と紋枯病が多く、いもち病は平年並の予報 (岩手県病害虫防除所)
		・北東(農業研究センター) 「ひとめぼれ」、「あきたこまち」の草丈は平年より長く、葉数は「ひとめぼれ」では平年よりやや多く、「あきたこまち」では平年並みとなっている。茎数は平年より多く、葉色は平年以上となっている。「あきたこまち」は7月21日(平年より5日早)、「ひとめぼれ」は7月26日(平年より3日早)に減数分裂期に達した。	・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。 イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。
		・軽米(県北農業研究所) 「いわてっこ」の草丈は平年より長く葉数も平年より多い。茎数の減少が進み、現時点では平年を下回るに至っている。葉色は平年を上回っている。減数分裂期は、7月20日(平年より4日早)に達した。 (岩手県農業研究センター他 7月25日現在)	・北東北の一部地域では、フタオビコヤガの発生は「多い」予報。 (農林水産省 7月24日公表)
宮城	(生育)	・(県全体) 約67,529ha(水稲作付見込み面積の94.6%)で出穂が確認されている。県全体の出穂期は8月8日と見込まれ、平年より4日早い。(宮城県 8月7日現在)	・8月は、穂いもちが「平年並」、紋枯病が「やや多い」、斑点米カメムシ類が「多」の予報。 (宮城県病害虫防除所 8月8日公表)
		・(大河原) 平年と比べ草丈は並～やや短め、茎数はやや多め、葉数は平年並～やや多め。全ての調査まで、低温の影響を受けやすい穂ばらみ期(幼穂形成始期～出穂直前)となっており、平坦部で田植えの早かった中生品種には、減数分裂期(幼穂3~12cm、出穂11~17日前頃)に達している。平坦部の中生品種の出穂期は、8月1日頃と推測される。(7月11日現在の予測) (大河原農業改良普及センター 7月18日調査)	・注意報ー斑点米カメムシ類の発生が県内全域で多い。 (宮城県病害虫防除所 8月6日公表)
		・(亶理) 移植栽培は、各ほ場とも必要茎数をおおむね確保し、幼穂形成期～減数分裂期に入った。生育は平年と比較して4~5日早まっていると予測される。直播栽培は、茎数の増加は穏やかになっており、各ほ場とも幼穂が確認され、幼穂形成期に入ると思われる。生育ステージは、4~5日早く進んでおり、出穂期は7月31日~8月8日と予想。 (亶理農業改良普及センター 7月10日及び18日調査)	・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。 イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。 (農林水産省 7月24日公表)
		・(仙台) 減数分裂期(出穂まであと15日程度)に入ったほ場が多く見られた。今回も「倒伏危険域」にある調査ほ場はない。出穂期は、7月末~8月上旬(平年値：8/5)になると見込まれる。 (仙台農業改良普及センター 7月18日調査)	
		・(大崎) 平坦地域で出穂期に達した面積は約48%で、出穂期は8月1日(平年より3日早い)。丘陵地域の出穂期は8月3日ころ(平年より4日早い)、山間地域の出穂期は8月6日ころ(平年より4日早い)と予想。積算平均気温による刈取り時期の判定は、平坦地域と丘陵地域のひとめぼれの刈取り期は9月9日~9月13日、終期は9月17日~22日、山間地域の早生品種の刈取り期は9月14日~19日。 湛水直播の出穂期はカルバーコーティングが8月8日ころ、鉄コーティングが8月15日ころと予想。 (大崎農業改良普及センター 7月31日調査)	
		・(美里) 移植栽培は、平年より気温が高く推移したことから生育は例年に比べ早く、出穂期は平年より6日早い8月1日頃となる見込み。ひとめぼれ、ササニシキについては、7月16~18日頃に減数分裂期(幼穂長3~12cm 出穂15~10日前)に入ったとみられる。つや姫については、7月16日頃に幼穂形成始期(幼穂長1mm 出穂25~20日前)に入ったとみられる。直播栽培は、松山の鉄コーティング湛水直播栽培、小牛田の乾田直播栽培ほ場では、幼穂形成期に入っている。鹿島台木間塚・大迫でも、1mm未満であるが幼穂が確認されている。移植栽培より10日程遅れて直播栽培ほ場も幼穂形成期に入っているとみられる。 (美里農業改良普及センター 7月18日調査)	
		・(栗原) ひとめぼれの生育は、草丈：平年並(平年比101%)、茎数：平年より多い(平年比117%)、葉数：ほぼ平年並み(平年差+0.2枚)葉色：ほぼ平年並み(平年比99%)、幼穂長：平年より長い(平年差+62mm)。管内の多くのほ場で減数分裂期に入っていると見られる。移植時期の早かったほ場では葉耳間長が+3cm程度になっており、約1週間出穂を迎えると思われる。 (栗原農業改良普及センター 7月18日現在)	
		・(登米) 平年と比べて草丈はほぼ平年並、茎数はほ場によってバラツキがあるが、平年並～やや多め、葉数は平年並～やや多め、葉色はやや濃い。移植栽培のほ場の幼穂長から、減数分裂期は7月22日頃、出穂期は8月4日頃とみられている。中生品種の減数分裂期は7月16日頃(7月12~20日)、出穂期は8月3日頃(7月31日~8月6日)になる見込み。 (登米農業改良普及センター 7月18日現在)	
		・(石巻) 出穂期は平年より5~6日早い。8月1日現在、移植の遅い桃生町寺崎調査ほを除くすべての調査ほ場で出穂期に達している。桃生町寺崎調査ほ場については、葉耳間長が+5cm程度となっていることから、数日中に出穂期となる見込み。 (石巻農業改良普及センター 8月1日現在)	
		・(本吉) 生育は平年より進んでいる状況。気仙沼市の生育調査ほ(ひとめぼれ)では、草丈は平年並(平年比103%)、茎数は多い(平年比119%)、葉数は平年よりやや少なく(平年差-0.5枚)となっている。南三陸町の生育調査ほ(ササニシキ)では、草丈は平年並(平年比99%)、茎数は少ない(平年比85%)、葉数は少なく(平年差-0.9枚)となっている。両生育調査ほともに幼穂長は12~20mm程度で、出穂18日前、出穂期は8月5日と推定され、平年より早まる見込み。管内の平年出穂期間(5カ年平均)は8月7日~14日。現時点では、本年は平年より早まるかと推定される。 (本吉農業改良普及センター 7月20日調査)	

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

	生育状況等	
秋田	<p>(生育) (鹿角) 管内の出穂期は、8月5日時点で82.3%で(54.4%)より早くなっている。出穂盛期は(8月5日現在)より2日早い8月3日となっている。(8月5日現在)</p> <p>(北秋田) あきたこまちの生育は、草丈65.6cm(平年比103%)、㎡当たり茎数544本(同94%)、葉数11.2(平年差+0.1葉)、葉色36.8(平年比91%)と、平年に比べ「草丈はやや長く、茎数は少なく、葉数は平年並、葉色は淡い」状況。(7月15日現在)</p> <p>(山本) 出穂期は8月2日(平年:8月4日)だった。(8月8日付)</p> <p>(秋田) 出穂状況は86.6%(平年67.5%)で、出穂盛期(50%出穂)は8月1日(平年8月4日)だった。(8月5日現在)</p> <p>(秋利) 出穂盛期は平年より4日、前年より2日早い8月3日となった。(8月8日付)</p> <p>(仙北) 「あきたこまち」の出穂は、盛期が8月2日(平年比-1日)とやや早まっている。(8月8日付)</p> <p>(平鹿) 管内の出穂期は平年より3日早い8月2日となった。(8月8日付)</p> <p>(雄勝) 出穂盛期(出穂率50%)は平年より1日早い8月4日となった。(8月8日現在)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・警戒一点米被害多発のおそれ 斑点米カメムシ類 「アカシカスミカメ、アカヒゲホソドリカスミカメ」 地域：秋田県全域、発生時期：早い、発生量：多い (秋田県病害虫防除所 8月7日公表) ・8月の斑点米カメムシ類と紋枯病は多く、穂いもちちは県北部・県中部で多い予報(秋田県病害虫防除所 7月31日付) ・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。 ・北東北の一部地域では、フタオビコヤガの発生は「多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)
山形	<p>(生育) ・7月18日現在の平坦部「はえぬき」は、茎数はやや多く、草丈・葉数・葉色ともに平年並みとなり、良好な稲姿になっている。出穂期は、「あきたこまち」が平年より2日程度早く、「はえぬき」、「つや姫」が3日程度早く、「コンヒカリ」は2日程度早まる予想。 (山形の米日本一推進本部 7月18日現在)</p> <p>(庄内) 多くの圃場で、「はえぬき」が8月2~4日に出穂期となる。晩生品種「つや姫」の出穂も平年より2日程度早くなる予想。 (庄内総合支庁 7月31日現在)</p> <p>(北村山) 北村山平坦部の予想出穂期は、あきたこまち8月3~5日、ひとめぼれ8月6~8日、はえぬき8月8~10日、つや姫8月11~14日。つや姫の生育は、茎数は指標の水準を確保、葉色は全般に指標並だがやや濃いところもある。出穂予想は8月11~14日(ほぼ平年並み)。 (村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月23日付)</p> <p>(東南村山) はえぬきの出穂期は、8月2日~4日、つや姫も走り種が確認され、出穂期は8月7~9日と予想される。 (村山地域本部村山農業技術普及課 8月5日付)</p> <p>(置賜) 「草丈：平年並み」、「茎数：多い」、「葉数：平年より3日程度早い」、「葉色：平年並み」の状況。出穂期は3日程度早い予想 (山形の米日本一推進運動置賜地域本部 7月18日現在)</p> <p>(最上) 最上管内の出穂状況は平年より2日程度進んでおり、すでに早生品種は穂が出揃い、中生品種はこれから出穂期を迎えようとしている。出穂期予想は、ヒメノモチは7月30日~8月1日(平年比-1日)、あきたこまちは7月31日~8月2日(平年比-2日)、ひとめぼれは8月4日(平年比-2日)、はえぬきは8月5日(平年比-2日)、つや姫は8月11日(平年比-2日)、コンヒカリは8月12日(平年比-2日)。(最上総合支庁 8月4日付)</p> <p>(酒田) 管内の出穂期は、平年より4日早い8月3日。作況は(秋鳥)の出穂期は、はえぬきは8月3日(平年比-3日)、ひとめぼれは、8月2日(平年比-4日)。(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 8月4日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の斑点米カメムシ類と紋枯病の発生は多い予報 (山形県病害虫防除所 7月31日付) ・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。 (農林水産省 7月24日公表)
福島	<p>(生育) ・草丈が平年並から長く、茎数が平年に比べ郡山で多く、相馬で少なく、会津坂下で平年並の状況。出穂期は、平年に比べ2日から4日早まっている。 出穂状況は、郡山で「ひとめぼれ」(8月5日)が8月3日、相馬で「ひとめぼれ」(8月9日)が7月30日、会津坂下で「コンヒカリ」(8月20日)が8月5日、「ひとめぼれ」(8月20日)が7月31日。 (福島県農林水産部 8月8日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の斑点米カメムシ類の発生は多い予報 (福島県病害虫防除所 7月31日公表) ・東北の一部地域では、斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。 (農林水産省 7月24日公表)
茨城	<p>(生育) (水戸市) 5月1日に移植した「あきたこまち」の出穂期は平年より1日早く、「コンヒカリ」の出穂期は、平年より2日早かった。 5月9日に移植した「コンヒカリ」出穂期は、平年より5日早かった。(7月30日現在)</p> <p>(龍ヶ崎市) 4月28日に移植した「あきたこまち」の出穂始期は7月9日であり、平年より4日早い。幼穂の発育程度から予測される「コンヒカリ」の出穂期は7月26日であり、平年並である。両品種とも、平年に比べ草丈は平年並、茎数は平年並、葉色は「あきたこまち」が並、「コンヒカリ」が淡い。 5月7日に移植した「あきたこまち」は、幼穂の発育程度から予測される出穂期は7月18日であり平年より2日早く、「コンヒカリ」は7月30日であり平年より1日遅い。両品種とも、平年に比べ草丈は並、茎数は並~やや少なく、葉色は「あきたこまち」が並、「コンヒカリ」が淡い。(7月22日現在) (県農業総合センター農業研究所)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の斑点米カメムシ類の発生は多く、ニカメイガはやや多い予報。 (茨城県病害虫防除所 7月29日公表) ・関東の一部地域では、イネ縞葉枯病及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病の発生は「やや多い」と予報。 (農林水産省 7月24日公表)
栃木	<p>(生育) ・早期栽培(コンヒカリ)の全体の生育(16か所平均)は、草丈はやや低く(平年比98%)、茎数は平年並(100%)、葉色は0.1淡いことから、生育診断値(葉色×茎数)は平年比98%とやや小さい。葉齢が平年並、幼穂長は10.4cmで平年より4.1cm長く、幼穂長から予測すると出穂期は7月26日であり、平年より4日早い。早植コンヒカリ(5月4日移植)の出穂期は、宇都宮市で7月28~29日頃で平年より4日程度早く、大田原市では8月1日~2日で平年より5日程度早く1日程度早まる見込み。現段階で想定される収穫適期は、出穂後の気温が平年並で推移した場合、県南部が8月6日(8月26日~31日)、県中部が9月第1半旬~第2半旬、県北部(標高の高い地域を除く)が第2~第3半旬である。曜日との兼ね合いから県中北部では9月6日(土)~7日(日)が作業の適期になる可能性が高い。 ・普通栽培(あさひの夢)3か所平均は、草丈は51.7cmで平年比86%と低く、茎数は431本/㎡で平年比89%と少ない。葉齢は10.3で平年より0.1葉多く、葉色は4.6で平年より0.1淡い。生育診断値(葉色×茎数)は2.002で平年比89%と小さい。 (栃木県農政部 7月18日現在)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関東の一部地域では、イネ縞葉枯病及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病の発生は「やや多い」と予報。 (農林水産省 7月24日公表) ・7月下旬~8月下旬の斑点米カメムシ類の発生量はやや多い予報。 (栃木県農業環境指導センター 7月18日公表)
埼玉	<p>(生育) ・生育は、いずれの作期も概ね順調。早期栽培の出穂は、平年並から3日程度早まった。穂数は平年並から多く確保されている。早稲栽培および普通栽培の生育は、草丈、茎数とも平年を上回って推移している。一部やや過繁茂気味のほ場も散見される。 (生育予測) ・早期栽培の収穫期は、出穂期がやや早く、やや早まる予想。収量は、穂数がやや多く確保される見込みで、登熟も順調に進むと思われることから、平年並から多収になると予想される。品質は、今後も高温が予想されることから白未熟粒の発生が懸念される。 ・早稲栽培の出穂期は、平年並から3日程度早まる予想される。収量は早期栽培同様に、平年並から多収になると予想される。 ・普通栽培の生育は概ね順調に推移すると見られる。出穂期は、「彩のかがやき」では概ね平年並、「キヌヒカリ」では平年並から3日程度早まる予想される。 (埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所 8月4日現在)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関東の一部地域では、イネ縞葉枯病及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病の発生は「やや多い」と予報。 ・南関東の一部地域では、ヒメトビウンカ及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。 (農林水産省 7月24日公表) ・イネアオムシ第3世代成虫飛散最盛日は8月2日(平年より17日早い) (埼玉県病害虫防除所 7月29日付)
千葉	<p>(生育) ・全体的に生育の進みは早く、出穂期は、早生・中生品種は2~3日程度、また、晩生品種は3~5日程度早くなった。成熟期は「ふさおとめ」が8月12日頃から、「ふさこがね」が8月16日頃から、「コンヒカリ」が8月21日頃からと予測される。(千葉県農林水産部 7月29日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関東の一部地域では、イネ縞葉枯病及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病の発生は「やや多い」と予報。 ・南関東の一部地域では、ヒメトビウンカ及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。 (農林水産省 7月24日公表)

	生育状況等	
新潟	<ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリの県平均の出穂期は、8月6日で平年より2日程度早まる見込み。コシヒカリの生育は、地域別には、葉色は新潟、柏崎、糸魚川、佐渡で淡く、新潟、南魚沼でやや濃くなっている。(新潟県農林水産部 7月30日現在) (岩船) 草丈:並、莖数:並(一部やや多)、葉数:やや早い、葉色:並。コシヒカリの予想出穂期は、調査場所(6地点)平均で8月8日。(村上農業普及指導センター 7月30日現在) (新発田) 草丈:91cm(106% やや長い)、莖数:406本/m²(110% やや多い)、葉数:13.5葉(+0.7葉 やや多い)、葉色:葉緑素計32.2(-1.3 やや淡い)。出穂期は平年より1日程度早まる予想だが、ほ場により幼穂長のばらつきが見られる。(新発田農業改良普及センター 7月30日現在) (生育) (新潟) <u>こしいぶきは、出穂期が7月27日で、収穫適期見込みは9月2日。コシヒカリ(5/10以前種)は、出穂期が8月5日で、収穫適期見込みは9月13日。コシヒカリ(5/10以降種)は、出穂期が8月6日で、収穫適期見込みは9月15日。(8月7日付)</u> コシヒカリの生育は、葉色が目標値に比べやや淡くほ場によっては追肥が必要な状況。管内生育調査ほ(40地点)の平均値は、草丈:91cm(目標比102%)。莖数:383本/m²(同106%)、葉齢:13.2(同-0.2)、葉色:31.1(同-1.5)。(新潟農業普及指導センター 7月30日現在) (新潟) 草丈は、目標値に比べやや長い。莖数・葉色は目標値並である。コシヒカリの出穂は8月4日頃と予想される。(5月5日田種)(新潟農業普及指導センター 7月30日現在) (巻) 草丈、莖数ともに目標値「並」程度のため、倒伏及び後期栄養不足の危険性は少ない。葉色は全体として目標値「並」で適正であるが、一部のコシヒカリの一元元肥栽培で葉色が淡いほ場が見られる。コシヒカリの出穂期は、概ね「平年並」と予想。(巻農業普及指導センター 7月30日現在) (三条) <u>コシヒカリは順調な生育で、連休中も出穂が確認され始めた。(三条農業普及指導センター 8月4日付)</u> (長岡) <u>コシヒカリ(移種)の出穂盛期は8月3日(8月2~7日)であった。収穫適期は9月12日(9月11~17日)の予想。(長岡農業普及指導センター 8月8日付)</u> (魚沼) 草丈:並、莖数:並~やや多い、葉数:やや多い、葉色:並~やや淡い。コシヒカリの出穂は平年より2日程度早い見込み。出穂予想は、5月20日移植(数神)は8月7日、5月24日移植(小出)は8月5日、5月25日移植(入込瀬)は8月10日の見込み。(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月14日現在) (南魚沼) コシヒカリの生育は、目標値に比べ草丈は「並」、莖数は「多」、葉色は「やや濃」。出穂期は平年と比べ2日程度早まっている。草丈:並(86cm<104%)、莖数:多(449本/m²<123%)、葉色:やや濃(SPAD値33.4<+1.9)、葉数:並(12.7葉±0.0)。 (南魚沼地域農業振興協議会 南魚沼農業普及指導センター 7月30日現在) (十日町) 十日町・川西地域(平垣地)の生育は、草丈:並、葉色:並。松代、松之山地域(谷地、高標高地)では、草丈:並、葉色:並(一部濃い)、中里、清南地域(谷地、高標高地)では、草丈:並、葉色:並。出穂予想(十日町地域)は、平年に比べ1日程度早くなる見込み。ほ場間差大きく、予想より早いほ場散見。(十日町農業普及指導センター他 7月30日現在) (柏崎) 出穂は、前情報同様、8月3日~5日頃の見込み。生育は、目標値に比べ草丈がやや長く、莖数は多めとなっている。葉色は目標値より大幅に低くなっており、7月20日~30日の葉色低下は急激で、近年最低の品質だった平成22年と類似しているため、観察と対応が必要としている。(柏崎農業普及指導センター 7月30日現在) (上越) 草丈:長い(113%)、莖数:多い(116%)、葉数:やや多い(+0.5葉)、葉色:並(葉色値±0)。ほ場ごとに生育のパラッキが大きくなっており、各ほ場に合わせた管理が必要。コシヒカリの出穂は平年より2、3日早い見込み(5月10~15日頃の田種では出穂期は8月4日頃)。(上越農業普及指導センター他 7月30日現在) (糸魚川) 気象感応ほコシヒカリは、草丈:やや長、莖数:多、葉数:やや多、葉色:淡。品質向上実証ほコシヒカリは、草丈:莖数・葉数、葉色とも並。気象感応ほこしいぶきは、草丈:長、莖数:多、葉数:やや少、葉色:濃。(糸魚川農業普及指導センター 7月30日現在) (佐渡) コシヒカリの生育は、草丈、莖数は並、生育は並(南部はやや早い)葉色は淡い(特に南部)。(佐渡農業普及指導センター 7月30日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の斑点米カメムシの発生は多い~やや多い予報(新潟県病害虫防除所 8月1日公表) ・北陸の一部地域では、イネ紋枯病、ニカメイガ及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病とフタオビコヤガの発生は「やや多い」予報。(農林水産省 7月24日公表) ・注意報 一点米カメムシ類(農林水産省 7月16日発表)
富山	<ul style="list-style-type: none"> (コシヒカリ) 草丈は平年並み、葉齢はやや進み、莖数はやや多くなっている。葉色は平年並みであり、ほとんどのほ場で前回調査時と比べて同等から濃くなった。幼穂形成期は、平年より2日早い7月11日となった。出穂期は平年より2日程度早い、8月2日頃と見込まれる。(てんたかく) 5月5日に移植された「てんたかく」の出穂期は平年より4日早い、7月19日となった。成熟期は、平年より4日程度早い、8月24日頃と見込まれる。(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月22日現在) (生育) (直播情報) <ul style="list-style-type: none"> ・湛水土中直播栽培(カルパー)の生育状況は、草丈は77.3cm、莖数は522本/m²、葉齢は11.7、葉色は4.0。葉齢は平年に比べてやや進んでおり、草丈と葉色は平年並み、莖数はやや多くなっている。幼穂形成期、出穂期は、それぞれ平年より1日程度早い7月17日頃、8月7日頃と見込まれる。 ・湛水表面直播栽培(鉄)の生育状況は、草丈は76.2cm、莖数は497本/m²、葉齢は11.9、葉色は4.1。草丈、莖数、葉齢、葉色とも概ね湛水土中直播栽培と同程度となっている。幼穂形成期、出穂期は、それぞれ湛水土中直播栽培より1日程度早い7月18日頃、8月8日頃と見込まれる。 ・乾田V 湛水直播栽培の生育状況は、草丈は77.8cm、莖数は535本/m²、葉齢は11.3、葉色は3.9。近年に比べて葉齢がかなり進んでおり、草丈はやや長く、莖数は多くなっている。幼穂形成期と出穂期は、それぞれ近年より4日程度早い7月18日頃、8月9日頃と見込まれる。(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月18日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の斑点米カメムシ類の発生は多く、紋枯病とごま葉枯病はやや多い予報(富山県農林水産総合技術センター 7月31日公表) ・北陸の一部地域では、イネ紋枯病、ニカメイガ及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病とフタオビコヤガの発生は「やや多い」予報。(農林水産省 7月24日公表)
石川	<ul style="list-style-type: none"> ・早生は登熟中期、コシヒカリは登熟初期となっている。また、晩種や直播のコシヒカリは出穂期となっている。(農林総合研究センター 8月6日付) (生育) <ul style="list-style-type: none"> ・ゆめみづほの出穂期は、平年に比べ4~5日早く、加賀平均で7月16日、能登平均で7月19日となった。コシヒカリは、生育の早い加賀地域で出穂期となっているほ場が見られ、平年に比べ2日程度早いと予想される。 ゆめみづほ 加賀:7月13日~19日(近年より4~5日早い) 能登:7月18日~22日(近年より4日早い) 能登ひかり 能登:7月20日~22日(平年より4日早い) コシヒカリ 加賀:7月26日~30日(平年より2日程度早い) 能登:7月30日~8月3日(平年より1~2日早い) ・m²あたり莖数は、コシヒカリは395本/m²、平年比101%(加賀地域101%、能登地域101%)と平年並である。(農林総合研究センター 7月28日調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の斑点米カメムシ類の発生は多く、穂いもちはやや多いと予報(石川県農林総合研究センター 7月31日公表) ・北陸の一部地域では、イネ紋枯病、ニカメイガ及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病とフタオビコヤガの発生は「やや多い」予報。(農林水産省 7月24日公表)
福井	<ul style="list-style-type: none"> ・農業試験場における出穂期以降の積算気温に基づく収穫期予想 ハナエチゼン(5月2日種) 出穂期:7月16日、収穫期予想:8月16日(積算気温860°Cに到達する日) コシヒカリ(5月20日種) 出穂期:8月1日、収穫期予想:9月7日(積算気温990°Cに到達する日) (水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月8日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の斑点米カメムシの発生は多い予報(福井県農業試験場 7月31日付) ・北陸の一部地域では、イネ紋枯病、ニカメイガ及び斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予報。イネいもち病とフタオビコヤガの発生は「やや多い」予報。(農林水産省 7月24日公表)
長野	<ul style="list-style-type: none"> (生育) <ul style="list-style-type: none"> ・豊科(稚苗5月15日種)では「あきたこまち」が7月26日、「美山錦」が7月27日に出穂期となった。早生種の出穂期は「平年より3日早」。平坦地コシヒカリでは8月5日前後に収穫を迎える見込み。 ・平坦部の早生種(あきたこまち、美山錦など)は、向こう1ヶ月の気温は「平年並み~高い」と予想されていることから、刈り取り開始や成熟期は「平年より早く、昨年並みに早まる」見込み。これら出穂を迎えるコシヒカリも同様の傾向になる見込み。(松本農業改良普及センター 7月27日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・注意報 カメムシ類の発生が多く、斑点米が多発する恐れがある。地域:県下全域(7月30日公表) ・注意報 イネいもち病が県下全域(特に常習発生地、中山間地域)で多発する恐れがある。(7月25日公表)(長野県病害虫防除所)

生育状況等		
滋賀	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」の幼穂形成期は7月4日で平年より1日早く、出穂期は7月27日で平年より2日早い。「秋の詩」の幼穂形成期は7月18日で平年並。 ・草丈は、「コシヒカリ」は平年並で、「秋の詩」は平年よりやや短い。 ・茎数は、「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年比で1割以上多い。 ・葉色は、「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年よりやや濃い。 ・葉数は、「コシヒカリ」は平年より0.2枚多く、「秋の詩」は平年より0.3枚少ない。 (滋賀県農業技術振興センター 7月30日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・穂いもちの発生は「平年並」、紋枯病、白葉枯病は「やや少」、トビイロウンカ、ツマグロヨコバイは「平年並」、斑点米カメムシ類は「やや多」、コフメイガは「やや少」の予報。 (滋賀県病害虫防除所 8月5日公表) ・近畿の一部地域では、セジロウンカ及び斑点米カメムシの発生は「多い」と予報。イネいもち病、イネ縞葉枯病、ヒメトビウンカ及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。 (農林水産省 7月24日公表)
兵庫	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県南部の生育はやや早く、茎数が少ない。出穂はやや早くなる見込みである。県北部では、生育がやや早く、茎数が多い。出穂はやや早くなる見込み。 ・水稲生育予測サイトによる出穂期の予想は、県南平坦部たつの市揖保町(6/10移植)のヒノヒカリで8月27日、県南平坦部加東市天神(6/5移植)の山田錦で8月23日、淡路平坦部南あわじ市櫻列(6/20移植)のキヌヒカリで8月20日。各地とも、昨年推定出穂期より1日遅い予測。 (兵庫県農政環境部 7月29日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿の一部地域では、セジロウンカ及び斑点米カメムシの発生は「多い」と予報。イネいもち病、イネ縞葉枯病、ヒメトビウンカ及びイネ紋枯病の発生は「やや多い」と予報。 (農林水産省 7月24日公表) ・向こう1か月の発生は、縞葉枯病、ヒメトビウンカが「やや多」、いもち病、紋枯病、セジロウンカ、トビイロウンカ、ツマグロヨコバイ並びに斑点米カメムシ類は平年並の予想。イネツトムシ、コフメイガは「やや少」の予想。 (兵庫県病害虫防除所 7月24日公表)
岡山	<ul style="list-style-type: none"> ・中北部(極早生、早生品種)幼穂形成期は概ね平年並だった。出穂期はあきたこまちで平年並～やや早い。 ・南部(中生、晩生品種)移植期とその後の生育は平年並みだが、7月中旬までの草丈はやや短く、分けつは発生は、やや緩慢だったが、梅雨明け後は高温多湿により茎数は急増し、やや多い傾向である。葉色は平年並～やや濃く推移している。(7月31日現在) (岡山県農林水産総合センター他 8月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の葉いもち、穂いもちの発生量は多い予報 (岡山県病害虫防除所 7月31日公表) ・中国の一部地域では、斑点米カメムシの発生は「多い」と予報。イネいもち病、イネ縞葉枯病及びヒメトビウンカの発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)
広島		<ul style="list-style-type: none"> ・8月の穂いもちの発生は「多」、斑点米カメムシ類は「やや多」、トビイロウンカは「平年並」と予報。 (広島県西部農業技術指導所 8月8日公表) ・中国の一部地域では、斑点米カメムシの発生は「多い」と予報。イネいもち病、イネ縞葉枯病及びヒメトビウンカの発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)
山口	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月17日に萩市・阿武町で早期コシヒカリの出穂が確認された。(山口農林水産わっと 7月22日) ・コシヒカリ、ひとめぼれ ・5月中旬補えは穂ばらみ期。草丈と葉齢は平年並み、茎数はやや多い(24本/株)。 ・5月下旬補えは、幼穂形成期～伸長期。草丈と葉齢は平年並み、茎数はやや多い(24本/株)。 ・きぬむすめ、ヒノヒカリ(6月上旬補え) ・きぬむすめは幼穂形成期即頃。草丈と葉齢は平年並み、茎数は平年並(31本/株)。 ・ヒノヒカリは最高分けつ期頃。草丈はやや短く、茎数(19本/株)と葉齢は平年並。 ・日照不足からやや軟弱な生育をしている。 (JA長門大津、長門農林事務所 7月22日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・注意報—イネいもち病(穂いもち)発生地域：県内全域、発生時期：8月中旬～9月上旬、発生程度：多 ・8月の斑点米カメムシ類の発生は多く、穂いもちの発生は「やや多い」予報(山口県病害虫防除所 8月1日公表) ・中国の一部地域では、斑点米カメムシの発生は「多い」と予報。イネいもち病、イネ縞葉枯病及びヒメトビウンカの発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)
愛媛	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期コシヒカリや早・短期あきたこまちは登熟期を迎え、普通期水稲は、幼穂形成期から出穂・開花期を迎えている。 (愛媛県農林水産部/農林水産研究所 8月1日公表) 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の斑点米カメムシ類、葉・穂いもちと紋枯病の発生は平年並～やや多い予報(愛媛県病害虫防除所 7月28日公表) ・四国の一部地域では、ヒメトビウンカの発生は「多い」と予報。イネいもち病及び斑点米カメムシの発生は「やや多い」と予報。 (農林水産省 7月24日公表)
高知	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月8日現在、大雨による水稲被害は高知市ほか9市町村に及び、冠水、倒伏、圃場流出等被害面積は約214ha。(高知県 8月8日) ・早期栽培の作柄は、6月下旬の低温・日照不足により出穂に遅れがみられるもの総じて全のみ数は平年並みないしやや多いと見込まれることから「平年並み」が見込まれる。(農林水産省 7月15日現在) ・早期稲 出穂期は、南国そだち(4月4日移植)は6月23日、早稲えこしヒカリ(4月4日移植)は7月5日、標準遅刈コシヒカリ(4月14日移植)は7月7日。いずれの品種、作型とも平年より2～3日遅れている。 ・普通期稲 普通期では、6月3日にヒノヒカリを移植した。移植後気温が低く推移したため、6月は生育進捗(葉齢)が遅く、茎数は少なく推移した。7月7日時点では、茎数は高次分けつが発生によって平年よりやや多いものの、草丈は平年よりやや短く、葉齢(生育進捗)もやや遅れている。 (高知県農業技術センター) 	<ul style="list-style-type: none"> ・普通期水稲のいもち病は「やや多」と予報。(8月5日公表) ・早期水稲の斑点米カメムシ類の発生状況は平年並(8月1日公表) (高知県病害虫防除所) ・四国の一部地域では、ヒメトビウンカの発生は「多い」と予報。イネいもち病及び斑点米カメムシの発生は「やや多い」と予報。 (農林水産省 7月24日公表)
福岡	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈は夢つくして平年より8%低く、ヒノヒカリで平年より4～6%高く、茎数はほぼ平年並である。主穂葉数は平年並から0.5葉少ない。出穂期は平年並からやや早いと予想。 (福岡県農林業総合試験場 7月25日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・注意報—いもち病が中山間地及び平坦地の一部で増加。 (福岡県病害虫防除所 8月8日公表) ・8月のいもち病とトビイロウンカの発生は平年並、斑点米カメムシ類はやや少ない予報。(福岡県病害虫防除所 8月1日公表) ・北九州の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病、トビイロウンカ及び斑点米カメムシの発生は「やや多い」と予報。 (農林水産省 7月24日公表)
熊本	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JAあまくさ管内では7月27日から早期米の稲刈りが始まった(JAグループ熊本 管内JAニュース 7月31日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・注意報 早植えと普通期水稲に、8月中旬以降トビイロウンカの発生が「多」中山間地の早植え水稲に、出穂期以降いもち病の発生が「多」。(8月11日公表) ・8月の葉いもちの発生はやや多く、斑点米カメムシ類は平年並の予報。(7月31日公表) (熊本県病害虫防除所) ・南九州の一部地域では、ヒメトビウンカの発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)
宮崎	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通期水稲の生育ステージは分けつ期～幼穂形成期(宮崎県農業気象WEB SERVICE 7月31日) ・早期栽培の作柄は、6月下旬の低温・日照不足により出穂に遅れがみられるもの総じて全のみ数は平年並みないしやや多いと見込まれることから「平年並み」が見込まれる。(農林水産省 7月15日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・南九州の一部地域では、ヒメトビウンカの発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表) ・8月の普通期水稲の葉いもち、紋枯病、セジロウンカ、ヒメトビウンカの発生量は「平年並」、トビイロウンカは「やや多」、ツマグロヨコバイ、コフメイガは「やや少」の予報。 (宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月25日公表)
鹿児島	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培の作柄は、6月下旬の低温・日照不足により出穂に遅れがみられるもの総じて全のみ数は平年並みないしやや多いと見込まれることから「平年並み」が見込まれる。(農林水産省 7月15日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・普通期水稲のトビイロウンカの発生が「やや多」と予報。 (鹿児島県病害虫防除所 7月31日公表) ・南九州の一部では、ヒメトビウンカの発生が「やや多い」と予報。(農林水産省 7月24日公表)

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標			収穫量（生食用） 25年度	作況指数 25年度
		平成26年度	前年度との比較	増減率		
		↑	↑	%		
全 国	<p>・2014年8月～2015年2月の見通しでは、エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態が続いており、秋から冬にかけてエルニーニョ現象が発生する可能性は、これまでの予測よりも小さくなり、平常の状態が続く可能性と同程度となった。 （気象庁 8月11日発表）</p> <p>・8月9日～9月8日の1か月間の気温は、北・東・西日本では、ほぼ平年並だが、2週目は平年並か低く、3～4週目は平年並か高い見込み。降水量は、台風第11号や前線の影響により、北・西日本で多く、東日本で平年並か多い見込み。日照時間は、東・西日本で平年並か少ない見込み。 （気象庁 8月7日発表）</p> <p>（8～10月の3か月間の見通し）</p> <p>・8月の北日本は、前線や低気圧の影響で、降水量は平年並か平年より多い見込み。 8月は全国的に暖かい空気に覆われやすく、気温は全国的に平年並か平年より高い見込み。 北・東日本では、9月も暖かい空気に覆われやすく、気温は平年並か平年より高い見込み。 10月は気温、降水量ともにほぼ平年並の予想。 （気象庁 7月25日発表）</p>					
北 海 道	<p>・北海道地方の8月9日～9月8日の1か月間は、平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間はほぼ平年並の見込み。 期間のはじめに台風第11号や前線の影響を受けるため、向こう1か月間の降水量は平年より多くなり、2週目は本州付近の気圧の谷に向かって寒気が流れ込む影響で、平均気温が平年並か低く、3～4週目は平年並か高い見込み。天気は数日の周期で変わる見込み。 （札幌管区気象台 8月7日発表）</p>	554,140	▲ 18,800	▲ 3.3	601,300	105
青 森	<p>・東北地方の8月9日～9月8日の1か月間は、平均気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並の見込み。 降水量は、1週目に台風第11号や前線の影響を受けるため、平年並か多い見込み。期間の中旬に寒気の影響を受ける日があるが、天気は数日の周期で変わり、気温は、1週目は平年並か高く、2週目は平年並か低くなり、3～4週目は平年並か高い見込み。 （仙台管区気象台 8月7日発表）</p>	247,000	▲ 12,220	▲ 4.7	272,100	104
岩 手	同上（仙台管区気象台 8月7日発表）	275,540	▲ 10,810	▲ 3.8	287,800	102
宮 城	同上（仙台管区気象台 8月7日発表）	362,630	▲ 18,140	▲ 4.8	388,600	104
秋 田	同上（仙台管区気象台 8月7日発表）	433,040	▲ 13,390	▲ 3.0	450,200	100
山 形	同上（仙台管区気象台 8月7日発表）	358,570	▲ 15,630	▲ 4.2	386,100	102
福 島	同上（仙台管区気象台 8月7日発表）	348,420	▲ 7,440	▲ 2.1	368,600	104
茨 城	<p>・関東甲信地方の8月9日～9月8日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 1週目は、台風第11号や湿った気流の影響で、平年に比べ晴れの日は少なく、気温は高い見込み。2週目も前線の影響で、平年に比べ晴れの日が少なく、気温は平年並か低い見込み。 3～4週目は、太平洋高気圧に覆われ、平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並か高い見込み。 （気象庁 8月7日発表）</p>	341,550	▲ 7,340	▲ 2.1	398,900	104
栃 木	同上（気象庁 8月7日発表）	309,330	▲ 12,220	▲ 3.8	334,900	102
埼 玉	同上（気象庁 8月7日発表）	152,680	▲ 3,920	▲ 2.5	165,900	98
千 葉	同上（気象庁 8月7日発表）	249,280	▲ 6,420	▲ 2.5	329,100	104
新 潟	<p>・北陸地方の8月9日～9月8日の1か月間は、平均気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 1週目は、台風第11号や湿った気流の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は平年並か高い見込み。2週目は気圧の谷や前線の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少なく、気温は平年並か低い見込み。3～4週目は、太平洋高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並か高い見込み。 （新潟地方気象台 8月7日発表）</p>	535,640	▲ 10,030	▲ 1.8	594,400	103
富 山	同上（新潟地方気象台 8月7日発表）	192,340	▲ 3,920	▲ 2.0	198,200	102
石 川	同上（新潟地方気象台 8月7日発表）	126,400	▲ 3,000	▲ 2.3	130,500	101
福 井	同上（新潟地方気象台 8月7日発表）	128,130	▲ 5,230	▲ 3.9	134,700	102
長 野	<p>・関東甲信地方の8月9日～9月8日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 1週目は、台風第11号や湿った気流の影響で、平年に比べ晴れの日は少なく、気温は高い見込み。2週目も前線の影響で、平年に比べ晴れの日が少なく、気温は平年並か低い見込み。 3～4週目は、太平洋高気圧に覆われ、平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並か高い見込み。 （気象庁 8月7日発表）</p>	196,640	▲ 7,760	▲ 3.8	213,000	101

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t	%	t		
滋賀	<p>・近畿地方の8月9日～9月8日の1か月間は、平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。</p> <p>・台風第11号の影響で、9月10日を中心に荒れた天気となり、大雨のおそれがある。2週目は前線や湿った気流の影響で、平年に比べ晴れの日が少なく、気温は平年並か低い見込み。3～4週目は、太平洋高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多く、気温も平年並か高い見込み。</p> <p>（大阪管区気象台 8月7日発表）</p>	163,380	▲ 7,000	▲ 4.1	169,300	102
兵庫	同上（大阪管区気象台 8月7日発表）					
岡山	<p>・中国地方の8月9日～9月8日の1か月間は、平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。</p> <p>・期間の前半は台風や前線の影響で曇りや雨の日が多く、気温は平年並か低い見込み。後半は太平洋高気圧に覆われて、平年並か高い見込みです。</p> <p>・台風や前線の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないため、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。</p> <p>（広島地方気象台 8月7日発表）</p>	181,930	▲ 6,010	▲ 3.2	189,800	100
広島	同上（広島地方気象台 8月7日発表）					
山口	<p>・九州北部地方（山口県含む）の8月9日～9月8日の1か月間は、平均気温は平年並、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。</p> <p>・1週目は台風第11号や湿った気流の影響で曇りや雨となる見込み。9日から10日にかけては台風第11号の影響で大荒れの天気となるおそれがある。2週目は、前線の影響で平年に比べ晴れの日が少ない見込み。3～4週目は太平洋高気圧に覆われ、平年と同様に晴れの日が多い見込み。気温は、期間の前半は平年並か低く、期間の後半は平年並か高い見込み。</p> <p>（福岡管区気象台 8月7日発表）</p>	130,130	▲ 4,270	▲ 3.2	132,600	99
愛媛	<p>・四国地方の8月9日～9月8日の1か月間は、平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。</p> <p>・9日から10日は台風第11号の影響で大雨となり、大荒れの天気となる見込み。期間の前半は、湿った気流や前線の影響で平年に比べ晴れの日が少なく、後半は、太平洋高気圧に覆われて、平年と同様に晴れの日が多い見込み。</p> <p>・気温は、1週目は平年並か低く、2週目は平年並、3～4週目は平年並か高い見込み。</p> <p>（高松地方気象台 8月7日発表）</p>	110,820	▲ 5,530	▲ 4.8	111,000	97
高知	同上（高松地方気象台 8月7日発表）					
福岡	<p>・九州北部地方（山口県含む）の8月9日～9月8日の1か月間は、平均気温は平年並、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。</p> <p>・1週目は台風第11号や湿った気流の影響で曇りや雨となる見込み。9日から10日にかけては台風第11号の影響で大荒れの天気となるおそれがある。2週目は、前線の影響で平年に比べ晴れの日が少ない見込み。3～4週目は太平洋高気圧に覆われ、平年と同様に晴れの日が多い見込み。気温は、期間の前半は平年並か低く、期間の後半は平年並か高い見込み。</p> <p>（福岡管区気象台 8月7日発表）</p>	50,050	▲ 1,700	▲ 3.3	57,900	98
熊本	同上（福岡管区気象台 8月7日発表）					
宮崎	<p>・九州南部地方の8月9日～9月8日の1か月間は、平均気温はほぼ平年並、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。</p> <p>・1週目は、台風第11号や湿った気流の影響で、平年に比べ晴れの日が少なく、2週目も、前線の影響で平年に比べ晴れの日が少ない見込み。</p> <p>・気温は、期間の前半は平年並、後半は平年並か高い見込み。</p> <p>（鹿児島地方気象台 8月7日発表）</p>	189,920	▲ 7,790	▲ 3.9	188,300	97
鹿児島	同上（鹿児島地方気象台 8月7日発表）					
		94,470	▲ 4,660	▲ 4.7	92,600	100
		111,540	▲ 3,980	▲ 3.4	112,500	101

参考資料:

平成26年産水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省)
平成26年産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)
平成25年産水陸稲の収穫量(農林水産省)

「平成26年度 病害虫発生予報第5号」の発表について(農林水産省 7月24日)
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月18日)、農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月18日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月18日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月18日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月18日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月18日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月18日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月18日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月18日)、農作物生育状況調査の概要 7月15日現在(北海道留萌振興局 7月18日)
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月4日)、病害虫発生予察情報第13号8月予報・第14号注意報第6号(北海道病害虫防除所 8月1日)、
H26水稲作況(生育ステージ)(青森県産業技術センター農林総合研究所 8月5日)、
8月5日現在水稲出穂進捗状況(青森県 8月6日)、平成26年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(青森県病害虫防除所 7月30日)、
平成26年度水稲生育定期調査結果No.6(岩手県農業研究センター技術部作物研究所・県北農業研究所作物研究室 7月25日)、
水稲の出穂状況(8月5日現在概況速報)について(岩手県他 8月6日)、平成26年度病害虫発生予察情報発生予報第5号(岩手県病害虫防除所 7月31日)、
平成26年産水稲の出穂状況について 8月7日現在(宮城県農林水産部 8月8日)、平成26年度産稲作技術情報(第6号)(宮城県大河原農業改良普及センター 7月23日)、
平成26年度産稲作情報(第5号)(宮城県亘理農業改良普及センター 7月25日)、仙台稲作情報第9号(宮城県仙台農業改良普及センター7月22日)、
平成26年産稲作技術情報第9号(宮城県大崎農業改良普及センター 8月1日)、平成26年産美里地区の稲作情報第7号(宮城県美里農業改良普及センター 7月22日)、
栗原の稲作通信平成26年第6号(宮城県栗原農業改良普及センター宮城県米づくり推進栗原地方本部 7月22日)、
登米地域の稲作通信第7号(宮城県登米農業改良普及センター 7月18日)、稲作情報Vol.7(石巻農業改良普及センター 8月4日)、
稲作情報Vol.6(本吉農業改良普及センター 7月22日)、平成26年度発生予察情報発生予報第8号-水稲-(8月8日)・注意報第3号(8月6日)(宮城県病害虫防除所)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「まちなちやん」ネル<http://www.e-komachi.jp/> 8月8日)、
平成26年度農作物病害虫発生予察情報発生予察情報発生予報第4号(8月予報)(7月31日)・警報第1号(8月7日)(秋田県病害虫防除所)、
米づくり技術情報No4(山形の米日本一推進運動本部 6月30日)、おいしい米づくり情報第10号(庄内総合支庁 8月1日)
稲作だより第7号出穂期管理編、つや姫だより第8号(村山地域本部・村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月23日)、
おいしい米づくり情報第7号登熟期編(村山地域本部・村山農業技術普及課 8月5日)、おきたま米づくり情報No.9(山形の米日本一推進運動置賜地域本部 7月22日)、
稲作だより第11号(最上総合支庁農業技術普及課 8月4日)、酒田・飽海米づくり情報第9報(酒田農業技術普及課 8月4日)、
平成26年度農作物有畜動植物発生予察情報発生予報第5号(8月)(山形県病害虫防除所 7月30日)、主要な農作物の生育状況平成26年度第5号(福島県農林水産部 8月8日)、
平成26年度病害虫発生予察情報発生予報第4号(8月)(福島県病害虫防除所 7月31日)、
農研速報(水稲の生育状況)(7月30日現在 水戸市)(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月30日)、
農研速報(水稲の生育状況)(7月22日現在 龍ヶ崎市)(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月22日)、病害虫発生予報8月号(茨城県病害虫防除所 7月29日)、
那珂川湯水対策支部の解散について(国土交通省関東地方整備局)、
平成26年度水稲生育診断予測事業速報No.5(早期栽培、普通植栽培7月18日調査結果)(栃木県農政部 7月23日)、
平成26年度病害虫発生予報第3号・第4号(栃木県農業環境指導センター)、平成26年度病害虫発生予察注意報第1号(栃木県農業環境指導センター)、
平成26年度水稲の生育概況Vol.3(平成26年8月4日現在)(埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所)、
平成26年度イネアオムシ発生予報第3報(埼玉県病害虫防除所 7月29日)、水稲の生育状況と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月29日)、
水稲の生育状況と今後の管理対策第8号(新潟県農林水産部 7月31日)、岩船米生育速報(7月30日現在)(村上農業普及指導センター)、
新発田地域水稲育成速報No.8(新発田農業普及指導センター 7月30日)、新潟稲作速報No.8(新潟農業普及指導センター 7月30日)、
売れる米づくり技術対策資料No.6(新潟農業普及指導センター 8月7日)、水稲生育速報No.7(新津農業普及指導センター 7月31日)
水稲生育速報(巻農業普及指導センター 7月30日)、平成26年度定期稲作技術情報 No.5(三条農業普及指導センター 8月4日)、
稲作情報No.8(長岡農業普及指導センター 8月8日)、
7月10日現在の生育状況と今後の管理(魚沼農業普及指導センター 7月15日)、稲作情報(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月14日)、
稲作情報No.10(南魚沼農業普及指導センター 7月30日)、7/30稲作育成速報(十日町) (十日町農業普及指導センター他)、
稲作管理情報8(柏崎農業普及指導センター 7月30日)、
水稲生育速報「コンヒカリ」(7月30日)(上越農業普及指導センター、上越東農林事務所)、平成26年度糸魚川売れる米づくり情報「ムツガ」No.8(糸魚川農業普及指導センター)
平成26年度 稲作生育速報 No.8(佐渡農業普及指導センター 7月30日)、平成26年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第6号(8月の発生予想)(新潟県病害虫防除所)、
TACS情報第9号-(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月22日)、直插情報第6号(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月18日)、
病害虫発生予報第5号(富山県農林水産総合技術センター)
平成26年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-9号)、台風11号の接近に伴う被害防止対策について(石川県農林総合研究センター 8月6日)、
病害虫発生予報第5号(石川県)、
稲作情報No.12(稲作情報作成委員会・水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月8日)、平成26年農作物病害虫発生予察予報第6号(福井県農業試験場)、
平成26年農作物病害虫発生予察注意報第2号(福井県農業試験場)、病害虫防除だよりNo.282(農業試験場病害虫防除室 7月25日)
平成26年度作物技術普及情報第15号(長野県松本農業改良普及センター 7月27日)、病害虫発生予察注意報第2号(7月25日)・第3号(7月30日)(長野県病害虫防除所)
平成26年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月30日)、平成26年病害虫発生予報第8号(滋賀県病害虫防除所 8月5日)、
平成26年度病害虫発生予察予報第3号(兵庫県病害虫防除所)、平成26年度兵庫県農業気象技術情報第4号(8月情報)について(兵庫県農政環境部 8月7日)、
生育情報No.1 平成26年度産水稲の生育状況と当面の技術対策(岡山県農林水産総合センター 岡山県農業気象技術連絡会議 8月7日)
平成26年度病害虫発生予報第5号(岡山県病害虫防除所 7月31日)、稲作ワンポイントアドバイス(No6)(JA 長門大津・長門農林事務所 7月22日)、
平成26年度病害虫発生予察情報予報第5号(水稲)(広島農林水産局 8月8日)、平成26年度農作物病害虫発生予報8号(山口県病害虫防除所 8月1日)、
平成26年度農作物病害虫発生予察注意報第4号(山口県病害虫防除所 8月8日)、
気象情報に基づく技術対策・作物(愛媛県 8月1日)、病害虫発生予報(8月)(愛媛県 7月28日)、
平成26年8月2日からの大雨による農業被害第2報(高知県)、平成26年度水稲生育状況(7/9時点)(高知県農業技術センター)、
平成26年度病害虫発生予察技術情報第2号(8月1日)・平成26年度病害虫発生予報第5号(8月5日)(高知県病害虫防除所)、
福岡県水麦大豆生育情報(福岡県農林業総合試験場 7月29日)、平成26年度病害虫発生予報第5号8月月報・技術情報第1号・注意報第1号(8月8日)(福岡県病害虫防除所)、
管内JAニュース(JAグループ熊本ホームページ<http://www.ja-kumamoto.or.jp>)、平成26年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(熊本県病害虫防除所)、
平成26年度病害虫発生予察注意報第1号(熊本県病害虫防除所 8月11日)、普及みやざき(宮崎県 平成26年7月28日)、台風11・12号対策について(宮農支援課 7月31日)
平成26年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター)、

エルニーニョ監視速報(No.263)(気象庁 地球環境・海洋部)

北海道地方こう1か月の天候の見通し(札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(気象庁)、
北陸地方こう1か月の天候の見通し(新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(広島地方気象台)、
四国地方こう1か月の天候の見通し(高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方気象台)